

【金賞】

『農家民泊で学んだこと』

宮崎県立宮崎西高等学校附属中学校 2年 亀岡 千愛

私たちがふだん何気なく食べているお米や野菜。それらを誰がどこでどんな風に、どんな思いで作っているか知っていますか。

私は中学一年生の時に行った「農家民泊体験」で、農作業や農家の方と直接触れ合うことで、農家さんの思いや

食べ物のありがたさについて学びました。

私が二日間お世話になった農家は、雄大な霧島連山を臨む自然豊かなえびの市にあり、すばらしい自然の恵みを生かしながら、大豆、落花生、しいたけ、くり、みかんやアケビの仲間であるウンベなど、四季折々の作物を少しずつ育てているやさしいご夫婦のところでした。

まず、その農家におじゃまして最初におどろいたことは、水道の水を一切使っていないということです。そのかわりに、山からこんこんと湧き出てくる水を使っていたのです。体験農家のおじいちゃんは、「緑豊かな霧島連山に降り注いだ雨が、長い長い時を経てる過されて、命の源である水として湧き出るんだよ。」と教えてくれました。いつも水道から出てくる水を何気なく使っていた私は、そのような水のドラマを考えたことがなかったので、この体験で豊かな自然の恵みである水のありがたさを学ぶことができました。

また、その後の野菜の収穫体験でも、たくさんの感動と学びを得ました。

まず、農家さんの自然とともに生きるという姿勢です。私が体験にうかがう少し前、えびの市を大きな台風がおそっていました。またその前の年には、霧島連山の硫黄山の噴火などがあり、私はその被害も心配していました。そこでおじいちゃんに、「台風や噴火の被害は大丈夫でしたか。」と尋ねました。すると、「噴火は大変だったよ。でもうちは幸い大きな被害はなかったし、自然のことだからある程度は仕方ないことだと思ってる。噴火はおそろしいけれど、火山のあるおかげで温泉という恵みもあるしね。台風ではせつかく実った作物が落ちてしまったりしたけど、豊かな森のおかげで山は強いから、土砂災害はなかったよ。自然はおそろしい面もあるけれど、恵みもたくさんもたらしてくれるから、農家は自然とともに生きていくんだよ。」と答えてくれました。日々天気の様子、季節の移ろいをびん感に感じながら自然と向き合う農家さんの、自然の脅威も恩恵も受け入れながら生きる姿勢には本当に感動したし、私たちがいつも食べている食べ物の裏側にはこのような方々の思いがあるとわかり、毎日「いただきます」と「ごちそうさま」と言うことの意味がよくわかりました。

そして、作物の収穫では、ふだんあまり食べたことのない、その地域ならではの果物や、ふだん食べていてもどんな風に実っているか知らなかった野菜などがたくさんあり、驚きと感動の連続でした。

家に戻るとおばあちゃんが、収穫した作物を使って料理を作ってくれました。とれたての野菜や果物はどれもびっくりするほどおいしく、自分でも驚くほどたくさんおかわりをしました。食べ物のおいしさに加えて、自分でとったという喜びや達成感があったからかもしれない。あの時食べたごはんのおいしさは、今も忘れることができません。

このように、自ら土と向きあう農業体験を通じて、私は水や食べ物の大切さ、そしてすばらしい自然の恵みをいただき、人々の命を支える農業の奥深さを感じました。

これからもこの体験で味わった感動と学んだことを忘れず、食べ物や、自然の恵みへの感動の気持ちを持ち続けていきたいです。